

せい ぼ 生母地区振興会

■代表者：会長 菊地 政平
■人 口：2,185 人（男 1,031 人／女 1,154 人）
■世帯数：639 世帯
■拠 点：生母地区センター
（前沢区生母字羽場69番地 1 ☎☎62933）
（平成 25 年 9 月 30 日現在）

結¹⁹ -ゆい- ～ 30の地区振興会による 協働のまちづくり実践事例 ～

生母地区は、前沢区の北上川東部に位置しています。北は水沢区黒石、南は平泉町長島に接する南北7.5キロ、東西6.3キロに広がり、稲作や畜産、林業が盛んな地域です。同地区は、歴史的な史跡や遺跡が多く見られ、特に「北限の磨崖仏」は、母禮と阿弓流為が朝廷に処刑された後、地域に流行した悪疫を退散させるために掘られたという伝説があります。「月山の赤松巨木美林」は、樹齢400年以上の南部赤松がそびえ立つ名所で多くの観光客が訪れています。生母地区振興会は平成16年12月26日、地域の歴史・伝統を継承し、地域課題に地区民が一体となって総合的に協議・解決する場の自治組織として設立。同振興会は、設立前からある既存の各種団体で構成されています。その中心となるのは①福祉活動推進協議会②教育振興会③体育会④老人クラブ⑤婦人会——の5つ。このほかの各種団体や自治公民館が加わり、事業などを展

特色のある地区振興会の事業を紹介するこのコーナー。シリーズ19回目は、前沢区の生母地区振興会を紹介します。



陸前高田市広田地区へ送った野菜

開。ここでは、特徴的な事業を紹介します。
■被災地野菜支援事業
同振興会は、東日本震災で大きな被害を受けた陸前高田市・広田地区へ支援活動を行っています。この活動は、同振興会が、広田地区で数年前から子どもを対象にした行事「親子海水浴教室」を開催していたことがきっかけ。「今できる支援を」と開始したものです。震災後、まず「一戸一升」と銘打ち、同地区約600戸から募った米、約900キロを支援しました。加えて「一株増産」活動を実施。これは、野菜を通常より

■生母げんき祭り
この祭りは、作品展示や芸能まつり、軽トラ市、出店などでにぎわう行事で、ことしで5回目。地区民が一堂に会し、地域の文化発展と親睦交流を目的にしています。地場産の野菜、花、リンゴなどの販売や、作品展示のほか、地区民が日ごろ、サークル活動で練習した歌や踊りを披露すれば、地元の幼稚園児が「竹太鼓」、赤生津小学校児童が



盛り上がった祭りでの餅まき

少し多く作り、その分を被災地に届けようとしたもので、これまで3回、広田地区に野菜を米と一緒に届けました。特定非営利法人復興支援奥州ネットが主体となり進めている「協働農場」の作業協力も行い、地区民全体で復興支援活動に参加しています。

■生母元気づくり事業
同地区の自治公民館や自治会、そのほかの地域団体などが行う地域活性化を支援する「生母元気づくり事業」。郷土芸能の備品購入や、自治会集会施設の備品整備など、地域の実情に応じた補助はもちろん、各自治会などで主催した手芸教室や、作品の展示発表会・世代交流などのソフト事業も支援しています。各団体が独自性あふれる事業を積極的に展開することで、同地区民が元気に地域活性化への取り組みを行うことを期待しています。



元気づくり事業の支援を受けた展示発表

地域づくりの先進地に学ぶ

前沢・月山探訪ツアー

～特定非営利活動法人
奥州・いわてNPOネット～



“つながれ広がれNPOの輪”の後継企画のこのコーナーでは、特定非営利活動法人や市民団体の活動を紹介していきます。

山々の木々が色づき始めた10月27日、「月山探訪ツアー」が前沢区生母で行われました。主催したのは、特定非営利活動法人奥州・いわてNPOネット（菅原恵子理事長）。地域づくりを実践している団体の活動を学び、その輪を広げようという事業の一環で、この日は市民活動に携わっている人や一般市民など31人が参加しました。今回の研修先は、同区生母にある生母生産森林組合（大石喜清組合長）で、イロハモミジなどの植林や月山松の保護など、美しい山を守るための活動を続けている団体。同組合が環境保全を通して、地域づくりにどう関わっているのか、実際の現場を巡りながら研修しました。

ことから、伐採や枝打ち、植林などを行っています。次に向かったのが、同キャンプ場に隣接する女二子神社の展望台です。ここは、眼下に生母・赤生津地区、左に平泉、右には遠く水沢が見渡せる人気スポット。ここを訪れる人々が気持ちよく過ごせるように一帯の枝打ちや下草刈りなどを行っています。そのほか、イロハモミジの森や、経塚山にある「胎内石」「馬蹄石」、月山神社の裏にある「座禅石」など同地域の隠れた資源を巡りながら、同組合の関わりや取り組みについて理解を深めました。今回のツアーで説明をした大石組合長は「誰かに任せるのではなく、自分たちの郷土は自分たちの手で守ることが大事」と、地域づくりの基本について語りました。参加者からは「地域の宝物を再発見した」「将来を見据え計画的に活動している点が勉強になった」という声が上がりました。ツアーを企画した奥州・いわてNPOネットは、NPOの自立や法人化の支援、またNPO同士の情報や活動をつ



1



2



3



4

1 植林の説明に聞き入る参加者 2 女二子神社展望台からの眺望 3 丁寧に説明をする大石理事長 4 ツアー参加者の皆さん

なぐ「中間支援NPO」。メイプル地下にある市民活動支援センターを運営しています。菅原理事長は「地域づくりには地元のキーマンが大事。先進事例を参考にしながら、これから『人づくり・団体づくり』のお手伝いをしていき

たい」と話します。地域の活動やまちづくりで悩んでいる場合は、市民活動支援センターに足を運んでみてはいかがでしょうか。■特定非営利活動法人奥州・いわてNPOネット（☎24200）